

# 平成30年度実施事業概要

全国鍍金工業組合連合会

## 【概況】

平成30年度めっき業界における景況は、比較的好況の声が目立った一方、依然有効求人倍率が高水準で推移する中、慢性的な人手不足が続き、薬品・金属等材料費のコストアップなどが各地で報告されました。平成31年に入ると米中貿易摩擦の影響から、半導体関連・自動車部品を中心に一部急激な受注減も報告され始め、英国EU離脱や10月に控える消費増税等の要因も重なり、年度末にかけて景気先行きの不透明さが増した一年となりました。

こうした中、全鍍連におきましては、平成30年度は以下の4つの事業を軸に活動を実施致しました。

### (1) 創立70周年記念事業

創立70周年という大きな節目を迎え、平成30年11月21日にホテルニューオータニにて記念式典を開催致しました。

### (2) 環境対策

ほう素・ふっ素の暫定排水基準が令和元年6月30日に期限を迎えることから、国に対し、各事業所より報告された排水濃度の実態と対策の実施状況を丹念に説明した結果、ほう素・ふっ素の暫定基準値がそれぞれ据置きのまま3年間（令和4年6月30日まで）延長が認められる見込みとなりました。

### (3) 技能奨励推進

第27回目となる全国めっき技術コンクールを開催。前年度に引き続き5部門で実施し、全国の組合より計476件の参加があり、めっき業界における技能奨励の機運が一層高まる契機となりました。

### (4) 人材交流活動

若手経営者・女性経営者が中心となる様々なイベントを通じ、参加者独自の目線から、現状の諸課題および対応策など活発な情報交換が実現されました。

平成30年度に廃業または脱会した組合員事業所数は36社で、新規加入は5社事業所でした。この結果、平成31年4月1日現在の組合員数は前年と比べ31社減の1268社となりました。退会企業の多くは、後継者不足などによる廃業と思われます。全鍍連では引き続き業界が直面する諸課題に真摯に取り組み、人材交流を活性化させ、技能の切磋琢磨を奨励し、魅力ある業界づくりに取り組んで参ります。

平成30年度に実施した主な事業は次の通りです。

## 1. 創立70周年記念式典の開催並びに70周年記念誌の発刊 〈総務委員会〉

創立70周年記念事業として、記念式典を平成30年11月21日にニューオータニにて開催し、約260名が参加した。また経済産業大臣表彰をはじめとする70周年記念表彰を計23名に対し行った。また直近10年の全鍍連事業活動の軌跡をとりまとめた「全鍍連70年史」を発刊した。

## 2. 「めっき」要覧の発刊及び組合員増強活動 〈総務委員会〉

全国の会員組合間、その組合員等で、めっき業界に関連する法令や必要な情報の収集先などを一つの媒体にした「めっき要覧」を発刊した。平成30年度「めっき要覧」では、全鍍連の概要、活動事業、環境問題等のほか、組合データ、統計データ等を更に充実させた。また本書を活用し、組合加入や全鍍連のメリット等をPRし、組合員及び賛助会員の増強を図った。

## 3. 都道府県各工業組合青年部交流会の実施 〈総務委員会〉

次世代の電気めっき業界を担う全国の若手経営者等を集め、平成31年2月22日に8回目となる「全国青年部交流会」を開催し、各地から青年部代表等38名が参加した。出席者より各青年部活動状況をはじめ、昨今の雇用状況等の諸課題及び対応策について活発な意見交換が行われた。

## 4. ほう素、ふっ素および亜鉛等排水規制への対応 〈環境委員会〉

年2回の排水濃度調査データを基に、当業界における取組状況や達成困難となる技術的要因等を国に対し説明しほう素・ふっ素の暫定排水基準については、それぞれ暫定基準値が据置きのまま3年間（令和4年6月30日まで）延長が認められる見込みとなった。亜鉛については、今後暫定排水基準適用業種が電気めっき業のみとなる可能性もあり、業界として更なる緊張感を持ち、関係事業所が最大限の企業努力を行うよう環境委員会を通じて要請した。

## 5. 揮発性有機化合物（VOC）の大気排出規制への対応 〈環境委員会〉

改正大気汚染防止法により、大規模使用施設（洗浄施設は総面積5㎡以上）については法規制（排出濃度規制）、それ以外の使用施設については自主的排出抑制を図るため、電気めっき業界は、トリクロロエチレン等の大気排出量を平成12年度に対して平成22年度には約3割削減する「自主行動計画」を策定している。自主取り組みの一環として、平成30年度においても平成29年度の排出状況の調査を行い、平成23年度より設定している目標値（平成21年度実績値である排出量791tを下回ること）を達成した。

## 6. 環境整備優良事業所表彰並びに認定制度の実施 〈環境委員会〉

平成2年度からスタートした環境整備優良事業所表彰は、平成30年度6事業所を第56回全国大会にて表彰を行い、創設以来の被表彰事業所数は累計841事業所となった。

また、環境整備優良事業所の平成30年度認定事業所の数は83事業所で、認定証並びに認定ステッカーを配布した。現在の認定事業所数は121社となった。（平成28年度～平成

30 年度認定)

## 7. 全国めっき技術コンクールの開催

〈技術委員会〉

第 27 回全国めっき技術コンクールを開催した（平成 4 年度より開催）。前年度同様、厚生労働省、東京都、中央職業能力開発協会、全国中小企業団体中央会、日刊工業新聞社の後援を得、476 件の応募があった。優秀作品は第 56 回全国大会にて、厚生労働大臣賞 5 件、厚生労働省人材開発統括官賞 5 件、東京都産業労働局長賞 5 件、中央職業能力開発協会会長賞 10 件、全国中小企業団体中央会会長賞 10 件、日刊工業新聞社賞 10 件及び全鍍連会長賞 142 件、合計 187 件の表彰を行った。厚生労働大臣賞については、副賞として楯の贈呈を行った。なお、前年度に引き続き東京都競技大会等促進支援事業（奨励金事業）として採択された（平成 26 年度より 5 回目）。

## 8. 卓越した技能者の表彰制度（現代の名工）

〈技術委員会〉

我が国の技能者表彰の最高峰である「卓越した技能者の表彰制度（現代の名工）」について、全鍍連は各工業組合に候補者の推薦を要請し、推薦のあった候補者について平成 30 年 3 月、卓越技能者表彰候補者選考委員会にて選考を行い、1 名を国に推薦した。

国は平成 30 年 11 月、全鍍連から推薦した石田幸平氏を含む全国 150 名を卓越した技能者（現代の名工）として表彰した。

## 9. 展示会「子ども霞が関見学デー」への出展

〈情報・国際委員会〉

平成 30 年 8 月 2 から 3 日に実施された「子ども霞が関見学デー」にめっき製品・作品等を展示した。今回も東京都鍍金工業組合の全面協力により、来場した子どもたち約 450 名に対し、キーホルダーにコーティング処理を施す「めっき体験教室」を実施した。

また、公式ホームページにおいて展示会場で子どもたちが描いた「キーホルダー」作品を紹介し、父兄・子どもに対し、広く業界 PR を行った。

## 10. 第 32 回日韓定期会議

〈情報・国際委員会〉

平成 30 年 10 月 22 日、第 32 回日韓定期会議をザ・プリンスパークタワー東京で開催した。日本側から森協会長をはじめ 10 名が、韓国側は申正基理事長など 8 名が参加し、環境問題や人手不足問題等、意見交換を行った。

## 11. 海外視察事業の実施

〈情報・国際委員会〉

海外情報収集並びに人材交流を目的に、平成 30 年 9 月 12 日から 18 日まで、30 名によりアメリカを訪問し、シカゴ国際工作機械見本市（IMTS 2018）を視察した。各参加者による視察レポートを視察報告書として取りまとめ、各組合等に配布した。

## 12. 先輩経営者と若手経営者との意見交換会の開催

〈経営委員会〉

業界内の先輩経営者を講師として迎え、若手経営者たちと意見交換を行う、「先輩経営者との意見交換会」を開催した。平成 30 年 9 月 21 日に太陽電化工業株式会社会長 伊藤 豪氏（元全鍍連会長）を講師として愛知（太陽電化工業(株)）で開催し、全国から 18 名が参加

した。講演後は若手の参加者と講師との活発な質疑が行われ、その後の懇親会においても大いに親睦を深め合った。

### **13. 女性経営者部会総会・研修会の開催**

＜経営委員会＞

平成 23・24 年度に実施した女性経営者座談会を発展させる形で、平成 25 年度より経営委員会傘下の部会として「女性経営者部会」が発足した。平成 30 年度 6 月 22 日総会を開催し、併せて記念講師として「ものづくりなでしこ」の代表幹事をつとめる富士電子工業(株)代表取締役の渡邊弘子氏を招き講演会を行った。また部会の活動理念を策定した。11 月 30 日には東北・北海道表面処理工業組合の優良めっき企業 2 社を訪問見学した。